

令和5年

第7回教育委員会会議

議案第21号

秋田県教育委員会

議案第二十一号

県費負担教職員の定数を定める規則の一部を改正する規則案

県費負担教職員の定数を定める規則の一部を改正する規則

県費負担教職員の定数を定める規則（昭和三十九年秋田県教育委員会規則第七号）の一部を次のように改正する。
別表を次のように改める。

別表

市町村名	学校種別	学校種別	定数				計
			校長・教員	養護教員	栄養教諭及び 学校栄養職員	事務職員	
鹿角市	小学校		89人	6人	1人	7人	103人
	中学校		65人	4人	2人	4人	75人
小坂町	小学校		14人	1人	1人	1人	17人
	中学校		13人	1人	0人	1人	15人
大館市	小学校		220人	17人	4人	18人	259人
	中学校		134人	9人	3人	9人	155人
北秋田市	小学校		96人	7人	2人	7人	112人
	中学校		52人	3人	1人	5人	61人
	義務 教育 学校	前期	10人	1人	0人	1人	12人
		後期	11人	1人	0人	1人	13人
上小阿仁村	小学校		9人	1人	1人	1人	12人
	中学校		9人	0人	0人	0人	9人
能代市	小学校		119人	8人	3人	7人	137人
	中学校		97人	6人	1人	7人	111人
藤里町	義務 教育 学校	前期	13人	1人	1人	1人	16人
		後期	12人	0人	0人	1人	13人
三種町	小学校		59人	5人	2人	5人	71人
	中学校		39人	3人	0人	3人	45人
八峰町	小学校		22人	2人	0人	2人	26人
	中学校		12人	1人	1人	1人	15人
秋田市	小学校		772人	44人	16人	42人	874人
	中学校		468人	18人	10人	19人	515人
男鹿市	小学校		75人	6人	1人	6人	88人
	中学校		39人	2人	2人	2人	45人
潟上市	小学校		91人	6人	2人	6人	105人
	中学校		60人	3人	1人	3人	67人
五城目町	小学校		21人	1人	1人	1人	24人
	中学校		16人	1人	0人	1人	18人
八郎潟町	小学校		11人	1人	1人	2人	15人
	中学校		12人	0人	0人	0人	12人
井川町	義務 教育 学校	前期	13人	1人	1人	1人	16人
		後期	13人	0人	0人	0人	13人
大潟村	小学校		14人	1人	1人	1人	17人
	中学校		11人	1人	0人	1人	13人
由利本荘市	小学校		206人	14人	5人	14人	239人
	中学校		165人	10人	2人	10人	187人
にかほ市	小学校		67人	4人	3人	4人	78人
	中学校		49人	3人	1人	3人	56人
大仙市	小学校		258人	21人	3人	21人	303人
	中学校		173人	11人	3人	13人	200人
仙北市	小学校		77人	6人	0人	7人	90人
	中学校		67人	5人	2人	4人	78人
美郷町	小学校		51人	3人	2人	3人	59人
	中学校		28人	1人	0人	1人	30人
横手市	小学校		248人	14人	3人	14人	279人
	中学校		148人	8人	2人	7人	165人
湯沢市	小学校		109人	6人	2人	6人	123人
	中学校		94人	6人	1人	7人	108人
羽後町	小学校		53人	4人	1人	4人	62人
	中学校		26人	1人	0人	1人	28人
東成瀬村	小学校		11人	1人	0人	1人	13人
	中学校		12人	1人	1人	1人	15人

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

令和五年四月六日提出

秋田県教育委員会教育長 安 田 浩 幸

理 由

令和五年度市町村立小学校、中学校及び義務教育学校の教職員配置基準及び少人数学習推進事業配置基準に基づく定数配置により各市町村の定数を定める必要がある。これが、この規則案を提出する理由である。

県費負担教職員の定数を定める規則の一部を改正する規則案要綱

1 改正理由

令和5年度市町村立小学校、中学校及び義務教育学校の教職員配置基準及び少人数学習推進事業配置基準に基づく定数配置により各市町村の定数を定める必要がある。

2 改正内容

市町村立小学校、中学校及び義務教育学校の県費負担教職員の定数を改めることとする。（別表関係）

3 施行期日

この規則は、公布の日から施行する。

令和5年

第7回教育委員会会議

議案第22号

秋田県教育委員会

議案第22号

令和5年度秋田県教科用図書選定審議会委員の任命について

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律（昭和38年法律第182号）第11条、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令（昭和39年政令第14号）第9条、秋田県教科用図書選定審議会委員の定数を定める条例（昭和39年県条例第59号）の規定に基づき、次の者を令和5年度秋田県教科用図書選定審議会の委員に任命する。

	氏名	分野	任期
1	片岡 美由貴	学校長等	令和5年4月6日～令和5年8月31日
2	高橋 晋	学校長等	令和5年4月6日～令和5年8月31日
3	平塚 定	学校長等	令和5年4月6日～令和5年8月31日
4	佐藤 和久	学校長等	令和5年4月6日～令和5年8月31日
5	熊谷 留美子	学校長等	令和5年4月6日～令和5年8月31日
6	石井 信恵	学校長等	令和5年4月6日～令和5年8月31日
7	伊藤 淳	学校長等	令和5年4月6日～令和5年8月31日
8	阿部 純一	学校長等	令和5年4月6日～令和5年8月31日
9	須田 喬	教育委員会関係者	令和5年4月6日～令和5年8月31日
10	湊 貞宗	教育委員会関係者	令和5年4月6日～令和5年8月31日
11	笹 美穂	教育委員会関係者	令和5年4月6日～令和5年8月31日
12	堀井 淑子	教育委員会関係者	令和5年4月6日～令和5年8月31日
13	住吉 聡子	教育委員会関係者	令和5年4月6日～令和5年8月31日
14	赤川 美和子	教育委員会関係者	令和5年4月6日～令和5年8月31日
15	杳澤 徹	教育委員会関係者	令和5年4月6日～令和5年8月31日
16	眞壁 聡子	学識経験者等	令和5年4月6日～令和5年8月31日
17	藤井 慶博	学識経験者等	令和5年4月6日～令和5年8月31日
18	上野 節子	学識経験者等	令和5年4月6日～令和5年8月31日
19	桑原 智子	学識経験者等	令和5年4月6日～令和5年8月31日
20	中島 奈津子	学識経験者等	令和5年4月6日～令和5年8月31日

令和5年4月6日 提出

秋田県教育委員会教育長 安田 浩 幸

理 由

令和5年度秋田県教科用図書選定審議会委員の任命について、県教育委員会の議決を得る必要がある。これが、議案を提出する理由である。

令和5年度秋田県教科用図書選定審議会委員名簿
(任期：令和5年4月6日から令和5年8月31日まで)

(令和5年4月1日現在)

	氏名	分野 (役職名等)	性別	地域	年齢	備考
1		以下、個人情報のため表示しません。				
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						

地域別			
地域	男	女	計
県北	3	2	5
中央	4	5	9
県南	2	4	6
計	9	11	20

※女性比率 55%

分野別			
分野	男	女	計
学校長等	5	3	8
教育委員会関係者	3	4	7
学識経験者等	1	4	5
計	9	11	20

年代別			
年代	男	女	計
30代	0	0	0
40代	0	2	2
50代	7	7	14
60代	2	2	4
計	9	11	20

※平均 56歳

令和5年

第7回教育委員会会議

報告事項

- (1) 令和5年度秋田県公立学校教諭等採用候補者選考試験の結果について
- (2) 令和6年度秋田県立中学校入学者選抜適性検査問題等作成方針
- (3) 令和6年度秋田県公立高等学校入学者選抜学力検査問題作成方針
- (5) 令和5年3月特別支援学校高等部卒業者の就職決定状況について

秋田県教育委員会

令和5年度秋田県公立学校教諭等採用候補者選考試験の結果について

令和5年4月6日(木)

高校教育課

令和5年度 教諭等新採用状況

採用校種	前々年度 前年度 採用延期者	R5 合格者	R5 辞退者 採用延期者	R5 採用者	備考
小 学 校 教 諭	3	118	6	115	辞退5名 大学院進学による採用延期1名
中 学 校 教 諭	2	61	2	61	辞退1名 大学院進学による採用延期1名
高 等 学 校 教 諭	0	26	0	26	
特 別 支 援 学 校 教 諭	0	23	5	18	辞退3名 大学院進学による採用延期3名
養 護 教 諭	0	11	0	11	
教 諭 計	5	239	13	231	
高 実 等 学 習 助 手	0	1	0	1	
特 別 支 援 学 校 実 習 助 手	0	1	0	1	
特 別 支 援 学 校 寄 宿 舎 指 導 員	0	3	0	3	
実 習 助 手 寄 宿 舎 指 導 員 計	0	5	0	5	
合 計	5	244	13	236	

令和6年度秋田県立中学校入学者選抜適性検査問題等作成方針

秋田県教育委員会

1 基本方針について

- (1) 適性検査問題については、小学校学習指導要領（平成29年文部科学省告示第63号）に基づくものとする。
- (2) 適性検査問題等は、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等を把握できるように出題する。
- (3) 適性検査問題等の内容は、適性検査と作文とする。
適性検査は、放送による検査を含む、国語、社会、算数、理科、外国語（英語）の教科横断的な内容とし、検査時間は50分とする。
作文は、自分の考えや意見等を書くものとし、検査時間は45分とする。

2 適性検査問題等の配慮事項について

適性検査と作文において、次の事項についての力がみられるように配慮する。

(1) 適性検査

- ア 聞いたり、読んだりしたことから、必要な情報を取り出し、その意味を理解する力
- イ 情報を自分の経験や教科で学んだことに関連付けて捉え、思考・判断する力
- ウ 目的に応じて、自分の考えや意見を表現する力

(2) 作文

自分の経験や見聞を基に、目的や意図に応じて、文章の構成や表現を工夫して書く力

令和6年度秋田県公立高等学校入学者選抜学力検査問題作成方針

秋田県教育委員会

1 基本方針

中学校学習指導要領（平成29年文部科学省告示第64号）に基づくものとする。

2 実施教科、検査時間及び出題内容

ア 学力検査の実施教科は、国語、社会、数学、理科、外国語（英語）の5教科とし、各教科の配点は、それぞれ100点とする。

イ 各教科の検査時間は、国語、数学、外国語（英語）は各60分、社会、理科は各50分とする。なお、国語の「聞くこと」に関する検査及び英語のリスニングテストは、当該教科の検査開始と同時に10分間程度行う。また、数学では学校による問題選択制を一部取り入れる。

ウ 問題は、各教科の目標・内容に即し、基礎的・基本的な事項及びそれらを活用して課題を解決することについて、学習の成果が多面的にしかもきめ細かに把握できるように出題する。

3 各教科の配慮事項

各教科とも、次の各領域及び事項についての学力がみられるように配慮する。

(1) 国語

ア 話の構成や展開、話し手の意図などを考えながら聞く力

イ 目的や意図に応じ、自分の気持ちや考えを効果的に伝えるために、ある程度まとまった文章を書く力

ウ 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら、内容や要旨を的確に読み取る力

エ 各領域の学習に関連する、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（漢字については、常用漢字を読む力と学年別漢字配当表に示されている漢字を書く力）

(2) 社会

ア 日本や世界の諸地域などの地理的事象について、自然及び社会的条件と関連させながら理解し、考察する力

イ 我が国の歴史的事象について、時代の動きや世界の歴史などと関連させながら理解し、考察する力

ウ 現代社会、経済と国民の生活、我が国の政治、国際社会の諸課題などに関する事項について理解し、考察する力

エ 地図や地球儀、統計、年表などの諸資料を活用して、社会的事象を様々な角度から判断し、表現する力

(3) 数 学

- ア 数や式を的確に処理する力及び基本的な方程式や不等式を用いる力
- イ 基本的な図形の性質についての理解及び図形について見通しをもって論理的に考察し表現する力
- ウ 具体的な事象について関数関係を見だし表現し考察する力
- エ 不確定な事象について確率を用いて考察する力及び資料や母集団の傾向を読み取る力
- オ 事象を数学的な見方や考え方に基づいて数理的に考察し表現する力

(4) 理 科

- ア 自然の事物・現象を科学的に探究する過程を通して、その仕組みや働きを多面的、総合的に考察する力
- イ 観察、実験で得られた事象や結果を分析して解釈し、表現する力
- ウ 観察、実験の基本操作及び観察、実験の結果を的確に記録、整理するなどの技能に関する力
- エ 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、活用する力

(5) 外国語（英語）

- ア 初歩的な英語を聞いて、その内容を聞き取り、適切に応答する力
- イ 場面に応じて適切な英語を用い、自分の考えなどを表現する力
- ウ まとまりのある英語の文章を読んで、その概要や要点、書き手の意向などを理解する力

令和5年3月特別支援学校高等部卒業者の就職内定状況について

令和5年3月31日現在
特別支援教育課

1 特別支援学校高等部卒業者の進路内定状況

単位:人

卒業予定者数	進学等	就職	福祉施設等利用	無職等	備考
186	5	57	117	7	・福祉施設等利用の内訳: 生活介護46、療養介護6、生活訓練1、就労移行支援1、 就労継続支援雇用型(A型)3、就労継続支援非雇用型(B型)59、 福祉利用1 ・無職等の内訳:就職準備1、その他6
割合	2.7%	30.6%	62.9%	3.8%	

2 就職者の内定状況

単位:人

学校・障害種別	学校数 <small>(含分校・分教室・附属)</small>	卒業予定者数	就職希望者数	内定者数 <small>(含内諾)</small>	備考
視覚支援学校(視覚障害)	1	7	6	5	
聴覚支援学校(聴覚障害)	1	7	3	3	
秋田きらり支援学校(肢体不自由)	1	9	0	0	
ゆり支援学校道川分教室(病弱)	1	3	0	0	
知的障害校(9校3分校) ※附属特別支援学校を含む	12	160	49	49	
計	16	186	58	57	就職内定率98.3%
卒業予定者数に占める割合			31.2%	30.6%	

3 就職内定先の業種等

業 種 等	人数	割合
製造業(自動車、電子部品等)	24	42.5%
医療・福祉(介護施設介護補助、清掃、事務等)	10	17.6%
卸売業・小売業(飲食物品小売、衣料小売等)	9	15.7%
宿泊業・飲食サービス業(飲食店、レストラン業務等)	4	7.0%
生活関連サービス業(美容院、清掃)	4	7.0%
その他サービス業(カスタマーサービス)	2	3.4%
複合サービス(農林水産協同組合)	1	1.7%
農業(農場・農園)	1	1.7%
林業(林業技能者)	1	1.7%
畜産	1	1.7%
計	57	

4 特別支援学校高等部卒業生進路先状況の年度別推移

単位:人

年度	卒業人数	進学	訓練機関	就職	施設等	無業・在宅	就職者の割合	知的障害校	
								就職者数	就職者割合
H22	179	9	2	41	107	20	22.9%	36	24.5%
H23	204	3	3	51	130	17	25.0%	45	25.7%
H24	198	5	0	58	117	18	29.3%	54	32.5%
H25	197	3	0	75	105	14	38.1%	68	38.9%
H26	199	4	0	83	100	12	41.7%	74	44.0%
H27	198	9	0	70	108	11	35.4%	66	39.3%
H28	223	1	0	70	146	6	31.4%	67	33.2%
H29	201	2	0	76	120	3	37.8%	65	37.8%
H30	196	0	0	74	118	4	37.8%	68	39.3%
R1	217	1	0	77	136	3	35.5%	74	37.4%
R2	199	4	2	74	109	10	37.2%	70	39.1%
R3	203	2	0	80	111	10	39.4%	76	41.5%
R4	186	5	0	57	117	7	30.6%	49	30.6%

令和5年

第7回教育委員会会議

報告事項（4）

令和5年度秋田県公立高等学校入学者選抜学力検査の抽出調査結果

秋田県教育委員会

令和5年度秋田県公立高等学校入学者選抜
学力検査の抽出調査結果

1 検査教科の平均点（受検者）

教科	令和5年度	令和4年度	前年度比較
国語	63.2	64.9	-1.7
社会	55.7	56.5	-0.8
数学	48.1	55.5	-7.4
理科	59.3	49.1	+10.2
英語	60.1	54.5	+5.6
合計点	286.4	280.5	+5.9
100点換算点	57.3	56.1	+1.2

令和5年度は、1次募集（特色選抜及び一般選抜）受検者から抽出。
令和4年度は、一般選抜受検者から抽出。

2 過去3年間の平均点の推移（受検者）

年度 \ 教科	国語	社会	数学	理科	英語	合計点	100点換算点
令和5年度	63.2	55.7	48.1	59.3	60.1	286.4	57.3
令和4年度	64.9	56.5	55.5	49.1	54.5	280.5	56.1
令和3年度	61.7	63.4	50.7	66.8	52.2	294.8	59.0

令和5年度は、1次募集（特色選抜及び一般選抜）受検者から抽出。
令和3年度及び令和4年度は、一般選抜受検者から抽出。

国 語

1 小問別の完全正答率と得点率

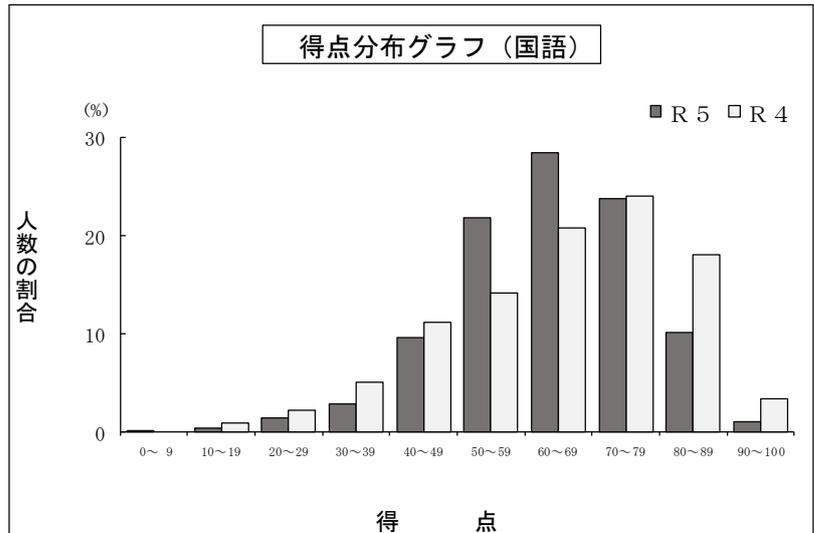
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)		
				0	100	
一	1	話合いの内容を正確に聞き取る	88.2	91.5		
	2	話合いの内容を正確に聞き取る	59.4	71.2		
	3	話合いの内容を正確に聞き取る	61.9	66.9		
	4	話合いの様子から、進行の仕方を考える	89.5	89.5		
二	1	本文の内容を捉える	91.6	92.9		
	2	本文の内容を捉える	31.4	42.5		
	3	本文の内容を捉える	82.9	83.9		
	4	本文の内容を捉える	86.1	86.1		
	5	(1)	a 本文の内容をまとめる	54.3	55.3	
			b 本文の内容を捉える	67.6	69.3	
	(2)	本文の内容をまとめる	7.6	28.1		
三	1	① 常用漢字を読む	90.3	90.3		
		② 配当漢字を書く	85.5	85.5		
		③ 常用漢字を読む	94.1	94.1		
		④ 配当漢字を書く	89.1	89.1		
	2	文節どうしの関係を捉える	82.5	82.5		
	3	故事成語の意味を捉える	87.4	87.4		
	4	形容詞の活用形を書く	46.9	47.2		
	四	1	本文の内容を捉える	83.4	84.8	
2		本文の内容を捉える	81.7	81.7		
3		叙述から登場人物の心情を捉える	2.5	17.6		
4		(1)	本文の内容を捉える	76.8	76.8	
		(2)	a 本文の内容を捉える	75.4	78.9	
			b 本文の内容を捉える	75.4	77.3	
(3)	叙述から登場人物の心情を捉える	9.5	17.7			
五	1	① 歴史的仮名遣いの読みを書く	97.1	97.1		
		② 歴史的仮名遣いの読みを書く	86.9	86.9		
	2	主語を捉える	61.1	61.1		
	3	a 本文の内容を捉える	89.3	90.2		
		b 本文の内容を捉える	79.6	82.7		
	4	(1) 本文の内容を捉える	25.9	26.6		
		(2) 本文の内容をまとめる	2.3	4.3		
六	具体例を取り上げて、自分の考えを分かりやすく書く			61.9		

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表（国語）

年度 段階	令和5年度	令和4年度
90～100	1.1	3.4
80～ 89	10.1	18.1
70～ 79	23.8	24.0
60～ 69	28.4	20.8
50～ 59	21.9	14.2
40～ 49	9.7	11.2
30～ 39	2.9	5.1
20～ 29	1.5	2.2
10～ 19	0.4	1.0
0～ 9	0.2	0.0
計	100.0	100.0
平均点	63.2	64.9
標準偏差	14.0	16.8



3 現状の分析

平均点は63.2点と昨年を1.7点下回った。本文の内容を的確に読み取り、自分の言葉で適切に表現できたかどうか得点の差となった。

- ① 「聞くこと」に関する検査では、発言の要点を整理したり、進行の仕方の特徴を捉えたりしながら、聞き取った内容を記述することができていた。
- ② 説明的な文章では、部分的な内容を読み取ることはできていたが、文章全体を俯瞰して筆者の主張を読み取り、理解したことを条件に応じて再構築してまとめることに課題が見られる。
- ③ 言葉の特徴や使い方に関する事項では、漢字の読み書きや故事成語の意味を捉えることはできていたが、単語の類別や活用について理解することに課題が見られる。
- ④ 文学的な文章では、場面の展開や表現の効果を捉えることは概ねできていたが、描写を通して暗示的に表現されている登場人物の心情を読み取って記述することに課題が見られる。
- ⑤ 古典では、歴史的仮名遣いや主語を捉えることは身に付いていたが、本文に表れたものの見方や考え方を理解し、自分の言葉で表現することに課題が見られる。
- ⑥ 作文では、自らの経験を取り上げて具体的に書くことはできていたが、自分がどう変化したのかというところまで考えを深められていないものも見られた。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】

- ・文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉え、文章についての理解を深める学習の充実を図る。
- ・文章についての理解を深めるために、叙述を根拠にして、読み取った内容や感想を交流したり、自分の言葉でまとめたりする学習の充実を図る。
- ・根拠を明確にしたり、知識や体験に関連付けたりしながら、自分の考えを表現する学習の充実を図る。
- ・言語感覚を磨き、語彙を豊かにするための言語活動の充実を図る。

- ① 主として説明的な文章において、文章中に示されている具体例と、書き手の主張との関係を考えながら内容を把握し、文章全体を俯瞰して筆者の主張を読み取る活動の充実を図りたい。
- ② 本文の叙述を根拠として自分の解釈をまとめる活動や、互いの解釈を交流し比較する活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりしながら文章を深く読み味わう活動の充実を図りたい。
- ③ 書く内容の中心が明確になるように、文章の構成や展開を考えるとともに、書いた文章を読み合い、互いの助言を踏まえて自分の文章の改善を図る活動の充実を図りたい。
- ④ 社会生活で使う語彙を豊かにするために、言語事項に関する知識を広げ、状況に応じて適切に言葉を使い分けられるよう、言語活動の充実を図りたい。

社 会

1 小問別の完全正答率と得点率

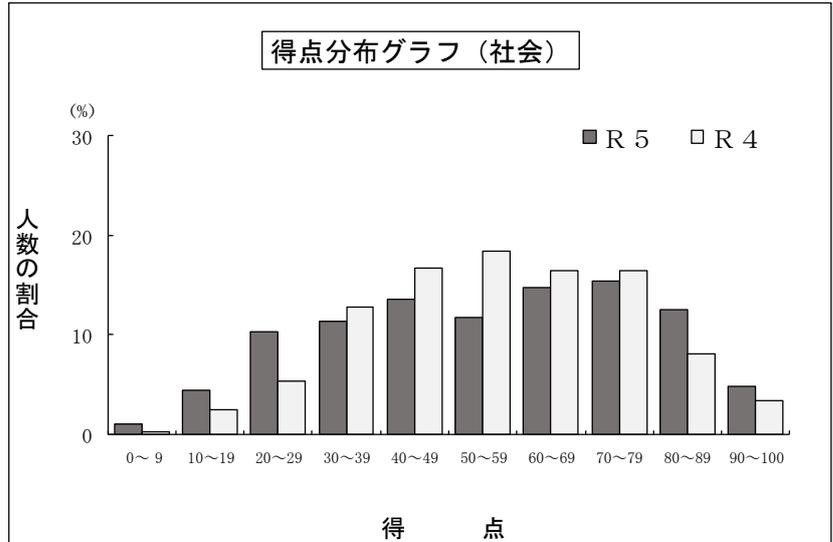
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)												
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100		
1	(1)	模式図に表されていない海洋名を答える	65.2	65.3												
	(2)	日本の領土を通る経線を模式図から選択する	57.1	57.1												
	(3)	雨温図が表す都市を地図から選択し冷帯の特色を答える	53.2	53.2												
	(4)	①	各州の農業に関わる資料を基にアフリカ州を選択する	44.3	44.3											
		②	二酸化炭素総排出量等の資料を基にイギリスを選択する	72.9	72.9											
③		中国国内の変化と課題について資料を基に説明する	28.1	51.1												
2	(1)	地図に示された県の県庁所在地名を答える	41.1	42.4												
	(2)	①	主題図の分布の傾向を読み取り選択する	83.0	83.0											
		②	図から主題図に関する特色を読み取り県名を答える	50.2	50.6											
	(3)	表から大阪府を選択し大阪府を含む工業地帯名を答える	33.8	33.8												
	(4)	①	図を基に再生可能エネルギー発電量の変化を答える	71.9	71.9											
		②	X	秋田県の再生可能エネルギー発電量の特色を説明する	61.1	65.9										
			Y	日本の発電量の変化とエネルギー自給率の関係を説明する	34.4	46.6										
3	(1)	①	資料が示すできごとよりも前のできごとを選択する	53.4	53.4											
		②	奈良時代に使いを送っていた中国の王朝名を選択する	64.2	64.2											
		③	律令国家のしくみが変わった理由を資料等を基に説明する	59.3	63.0											
	(2)	①	鎌倉時代に幕府が置かれた場所を地図から選択する	49.2	49.2											
		②	農業生産力が高まった理由を図や資料を基に説明する	18.6	37.2											
		③	室町時代の社会や文化の様子について述べた文を選択する	47.4	47.4											
	(3)	①	安土桃山時代や江戸時代に関わる時代区分を答える	74.9	75.0											
		②	パテレン追放令を出した人物がおこなった政策を選択する	57.3	57.3											
		③	寛政の改革を批判した狂歌から考察して人物名を答える	38.3	38.7											
	(4)	①	資料から考察して戦争の名称を答える	66.2	66.6											
		②	図を基に戦中期の人口移動の理由を選択する	59.7	59.7											
		③	図を基に高度経済成長期の人口移動に伴う事象を選択する	42.9	42.9											
		④	い	年表を基にベルリンの壁崩壊後に会談した国名を答える	37.2	37.7										
う			年表を基にベルリンの壁崩壊後に終結した事象を答える	67.8	68.0											
4	(1)	①	日本国憲法第11条に記された語を答える	18.4	18.7											
		②	人権を侵害された人々が国に要求できる権利を選択する	75.1	75.1											
	(2)	①	直接請求後の取り扱いについて答える	30.4	30.5											
		②	直接請求後の取り扱いの内容と必要な署名数を選択する	31.2	31.2											
		③	裁判所に対しての国民の政治参加の内容について選択する	70.2	70.2											
	(3)	内閣が行うことを選択する	46.2	46.2												
	(4)	Q R	国と地方の政治のしくみに共通する内容を答える	47.8	48.4											
		S	図を基に権利や自由を守るしくみについて説明する	49.2	52.1											
	(5)	野菜の価格の変化について資料を基に説明する	65.2	69.8												
	(6)	公正取引委員会が設置される根拠となる法律名を答える	56.7	57.1												
	(7)	不況期に起こりやすい状況を資料を基に選択する	81.6	81.6												
	(8)	社会保障制度から社会保険にあたるものを選択する	56.1	56.1												
	(9)	①	我が国の労働生産性の傾向を資料を基に説明する	63.4	73.9											
②		働き方改革に関する語を資料を基に選択する	88.9	88.9												

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表（社会）

年度 段階	令和5年度	令和4年度
90～100	4.9	3.4
80～89	12.5	8.1
70～79	15.4	16.4
60～69	14.8	16.4
50～59	11.7	18.3
40～49	13.6	16.6
30～39	11.3	12.7
20～29	10.3	5.4
10～19	4.5	2.5
0～9	1.0	0.2
計	100.0	100.0
平均点	55.7	56.5
標準偏差	22.4	18.9



3 現状の分析

前年度と比べ、30点未満と80点以上の得点層がそれぞれ増加した。基礎的・基本的な知識及び技能の習得に一定の成果は見られたが、資料から必要な情報を読み取って適切に判断したり、条件に従って的確に説明したりすることに課題が見られ、得点の差につながった。

- ① 大問1(4)①は、各州の農業に関わる資料を基にアフリカ州を選択する問題である（完全正答率44.3%）。複数の資料から読み取った情報を基にして、地域的な特色について、多面的・多角的に考察することに課題がある。
- ② 大問2(2)及び(3)は、主題図などの様々な資料から、その傾向や特色を読み取り、習得した知識などと関連付けた上で選択したり表現したりする問題である。資料から有用な情報を読み取り、既習内容と関連付けて考察することに課題がある。
- ③ 大問3(4)③は、第二次世界大戦後における人口の動態によって生じた事象を、年表と関連付けて選択する問題である（完全正答率42.9%）。資料や年表から歴史に関わる事象についての情報を的確に読み取り、考察することに課題がある。
- ④ 大問4(4)は、国や地方の政治のしくみについて、図を基に考察して説明する問題である（完全正答率49.2%）。習得した知識を生かし、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察し、適切に表現することに課題がある。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】・単元など内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定し、社会的な見方・考え方を働かせて課題を追究したり解決したりする学習活動を展開する。
 ・資料から読み取った情報を基に、社会的事象の意味や意義等を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする学習の充実を図る。

- ① 地理的分野では、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布などに着目して捉え、考察する力を養うことが大切である。資料から読み取った情報や習得した知識及び技能を、比較したり関連付けたりして、地理的事象の特色や意味について多面的・多角的に考察し、表現する学習の充実を図る必要がある。
- ② 歴史的分野では、各時代を大観して、時代ごとの政治や経済、社会の特色について多面的・多角的に考察し、的確に表現する力を養うことが大切である。歴史的事象を時期、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して捉え、事象の意味や意義、事象間の関連、各時代の特色について表現したり説明したりする学習の充実を図る必要がある。
- ③ 公民的分野では、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を養うことが大切である。現代社会の見方・考え方を働かせながら、課題の解決に向けて、習得した知識や事実を基に多面的・多角的に考察、構想したことを説明したり、論拠を基に自分の意見を表現したりする学習の充実を図る必要がある。

数 学

1 小問別の完全正答率と得点率

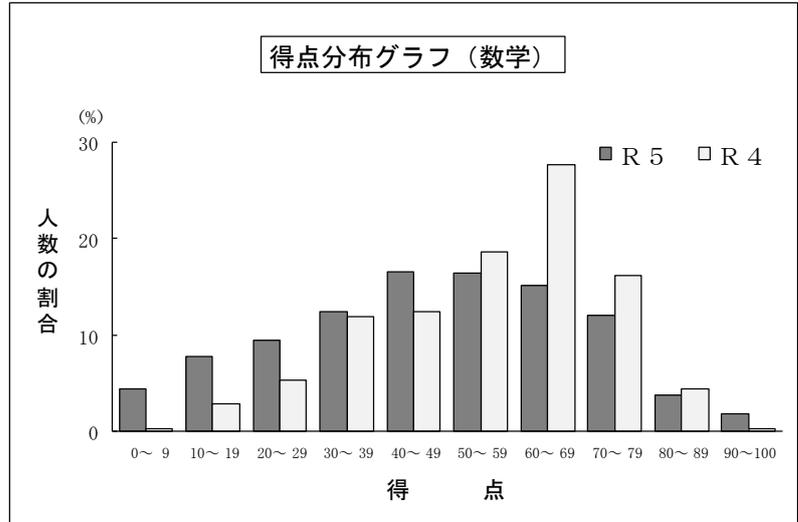
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)		選択率 (%)
				0	100	
1	(1)	正負の数を計算する	79.9			32.4
	(2)	単項式を計算する	63.7			77.7
	(3)	有理数と無理数の大小を比較する	83.6			15.4
	(4)	式の値を求める	70.4			45.5
	(5)	根号を含む式を計算する	58.2			80.6
	(6)	1次方程式を解く	61.9			33.7
	(7)	連立方程式を解く	85.8			68.4
	(8)	2次方程式を解く	79.1			68.6
	(9)	文字を用いた式で表す	17.6			37.1
	(10)	条件を満たす素数の値を求める	11.3			40.8
	(11)	角の大きさを求める	79.7			31.2
	(12)	角の大きさを求める	29.3			96.4
	(13)	線分の長さを求める	49.1			84.8
	(14)	水面の高さを求める	1.4			45.3
	(15)	円錐の表面積を求める	18.9			42.3
2	(1)	① 1次関数のグラフをかく	61.5			
		② 条件を満たす時刻を求める	36.0			
	(2)	① 条件を満たす確率を求める	73.5			
		② 等しい確率になる条件を求める	38.5			
	(3)	条件を満たす作図をする	72.4			
3	(1)	条件に合うヒストグラムを選択する	76.2			
	(2)	データの分布の特徴を表す数値を求める	38.9			
	(3)	① 箱ひげ図から読み取れることを選択する	36.0			
		② データの散らばり具合を説明する	53.5			
4	(1)	三角形の合同を証明する	24.2			
	(2)	逆を示し、反例を示す	42.7			
	(3)	直角三角形の斜辺の長さを求める	13.3			
5	I	(1) 2点を通る直線の式を求める	40.1			70.9
		(2) 線分の長さを求める	26.4			
		(3) 条件を満たす比例定数を求める	3.9			
	II	(1) 2点を通る直線の式を求める	63.0			29.1
		(2) ① 条件を満たす点のx座標を求める	28.3			
		② 条件を満たす点のx座標を求める	0.0			

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。
 ※大問1、5は学校選択の問題。選択率は、その問題を解くように指示された受検者の割合。

2 得点分布

得点分布表（数学）

年度 段階	令和5年度	令和4年度
90～100	1.9	0.2
80～ 89	3.8	4.4
70～ 79	12.0	16.1
60～ 69	15.2	27.6
50～ 59	16.4	18.6
40～ 49	16.6	12.5
30～ 39	12.4	12.0
20～ 29	9.5	5.4
10～ 19	7.8	2.9
0～ 9	4.4	0.2
計	100.0	100.0
平均点	48.1	55.5
標準偏差	21.4	17.0



3 現状の分析

- ① 大問1では、(1)、(3)、(4)、(7)、(8)、(11)で得点率が70%を超えており、基礎的・基本的な知識及び技能に関わる学習の成果が見られる。(9)条件に即して考え、文字を用いた式で表すこと、(14)水面の高さを求めること、(15)円錐の表面積を求めることなど、数学的な思考力、判断力、表現力等を発揮して解決することについて課題が見られる。
- ② 大問2(1)①の1次関数のグラフをかくことので得点率が62.3%であり、一定の学習の成果が見られるものの更なる定着が求められる。(1)②の条件に合う時刻を求める問題の得点率は36.0%であり、2人の動きの変化を関数として捉え、数学的に考察することについて課題が見られる。
- ③ 大問3(3)②の箱ひげ図を基に、データの散らばり具合を説明することの得点率が67.5%で、完全正答率が53.5%である。直観的に正解を選ぶことはできるが、その理由を説明することについて課題が見られる。
- ④ 大問4(2)のことがらの逆を示し、反例を示すことので得点率が51.3%であり、用語を正しく理解し、的確に表現することについて課題が見られる。(3)の直角三角形の斜辺の長さを求めることので得点率が13.3%であり、問題文を理解し、必要に応じて図を用いるなど、図形と数式を統合的に把握することについて課題が見られる。
- ⑤ 大問5は、関数と図形の融合問題であった。事象の中に潜む関係や法則を数理的に捉え、数学的に考察し表現することについて課題が見られる。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】 次の3点を重視し、数学的活動を通してバランスよく指導する。

- ・数量や図形などについての理解を深めるとともに、数学的な技能の習熟を図る。
- ・数学的な思考力、判断力、表現力等を高める。
- ・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考える態度を養う。

- ① 統合的・発展的に考察する題材を用いた学習活動を充実させるために、学習内容の系統性を踏まえた単元計画や授業構想を工夫する必要がある。
- ② 「数と式」の領域では、用語の正しい理解と、計算することや方程式を解くことなどの数学的な技能について、一層の習熟を図りたい。また、大問1(9)のような数量の関係を等式や不等式で表す問題では、式に用いた数や文字が表す意味を考えたり、最も簡単な式で表したりする活動の充実を図りたい。
- ③ 「図形」の領域では、大問1(14)、(15)のように、立体図形の置き方を変えたり転がしたりするなど、視点を変えて考えさせることで、見方や考え方が広がったり深まったりする問題を設定し、既得の知識及び技能を活用する活動の充実を図りたい。
- ④ 「関数」の領域では、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、大問2(1)のように、日常の事象を考察する問題を設定するなどして、目的に応じて表、式、グラフを適切に選択し的確に表現する活動の充実を図りたい。
- ⑤ 「データの活用」の領域では、大問3のように、ヒストグラムや箱ひげ図を用いて考察する活動の充実を図りたい。

理 科

1 小問別の完全正答率と得点率

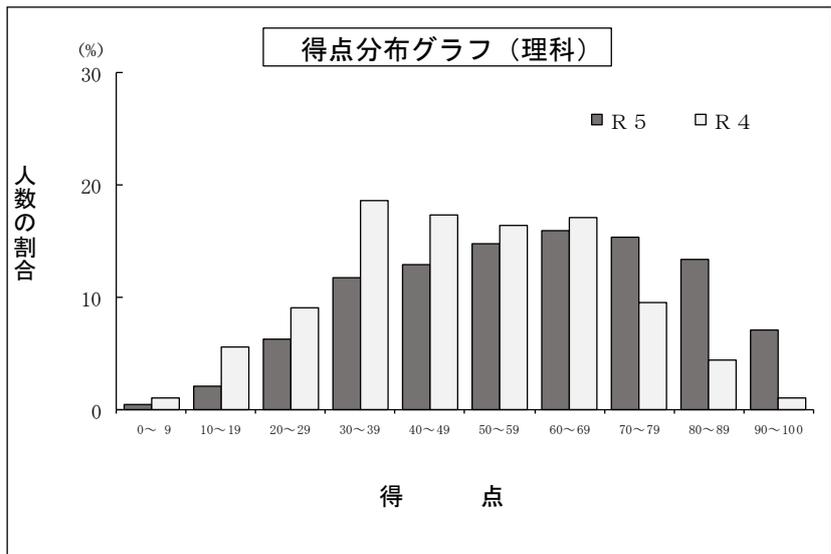
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)										
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
1	(1)	① 唾液中に含まれる消化酵素を選択する	89.5											
		② 40℃の湯を用いる理由について説明する	94.5											
		③ 唾液の働きによるデンプンの変化について説明する	80.0											
		④ 糖が含まれていることを確認する方法について説明する	58.9											
	(2)	① タンパク質が分解された物質が吸収される管を選択し、その名称を答える	55.9											
		② 多くの柔毛があると効率よく養分を吸収できる理由について説明する	92.9											
2	(1)	① 水素が分類されるものを選択する	82.6											
		② 水の検出に用いる試験紙の名称を答える	52.2											
		③ 反応後に残る気体を化学式で表し、その量をグラフから求める	31.2											
	(2)	① 水素と酸素は一定の割合で結び付くことについて説明する	40.1											
		② 燃焼すると水が生じる物質を選択する	34.6											
(3)	水素の燃焼を原子や分子のモデルを用いて表す	67.4												
3	(1)	① プレートの動きとして正しいものを選択する	81.8											
		② 誤りのある用語を選択し、正しく書き直す	47.6											
	(2)	① S波の伝わる速さを求める	45.1											
		② 震源からの距離と初期微動継続時間との関係をグラフに表す	36.2											
		③	X P波とS波の速さの違いについて説明する	74.7										
Y 大きな揺れが到達するまでの時間を決める要因を選択する	84.4													
4	(1)	位置エネルギーの特徴について説明する	85.2											
	(2)	① 仕事の大きさを表す単位を答える	85.0											
		② 仕事率を求める	22.5											
		③ 実験に使用したおもりの質量を求める	6.5											
		④	X 動滑車を使用した際の糸を引く距離について答える	78.7										
Y 動滑車を使用した際の加える力の大きさについて答える	76.1													
5	(1)	① 二酸化炭素を発生させる方法を選択する	79.4											
		② バイオマス発電における大気中の二酸化炭素の量の変化について説明する	54.3											
	(2)	① 交流を発光ダイオードに流した際の光り方を選択する	50.8											
		② 送電線で電気エネルギーが失われる理由について説明する	28.3											
(3)	バイオマス発電と風力発電におけるエネルギーの変換について答える	35.8												
6	(1)	① 鳥類に分類される生物を選択する	51.4											
		② 鳥類の卵の特徴について答える	84.4											
	(2)	① 北を表す記号と太陽が動いて見える方向を選択する	60.1											
		② 夏至と冬至で太陽の通り道が異なる理由について説明する	48.0											
		③ 冬よりも夏の方の気温が高くなる理由について説明する	51.2											

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表(理科)

年度 段階	令和5年度	令和4年度
90～100	7.1	1.0
80～89	13.4	4.4
70～79	15.4	9.5
60～69	16.0	17.1
50～59	14.8	16.4
40～49	12.9	17.4
30～39	11.7	18.6
20～29	6.3	9.0
10～19	2.0	5.6
0～9	0.4	1.0
計	100.0	100.0
平均点	59.3	49.1
標準偏差	21.4	19.1



3 現状の分析

- ① 今年度の得点分布は、昨年度と比べ、70点以上の割合が21.0ポイント増加し、39点未満の割合が13.8ポイント減少している。
- ② 観点別の完全正答率は、「知識・技能」が58.6%、「思考・判断・表現」が62.8%である。自然の事物・現象に関わり、それらの中に問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し表現するなど、科学的に探究する活動を重視した授業づくりが行われている成果と言える。
- ③ 領域別の完全正答率は、生物的領域が75.9%、地学的領域が58.8%、化学的領域が55.3%、物理的領域は52.3%である。生物的領域の完全正答率が比較的高かった。
- ④ 大問2(2)②の燃焼すると水が生じる物質を選択する問題では、完全正答率が34.6%である。有機物と無機物について、物質が燃焼したときの変化の違いなどに着目して判断する力が十分とは言えない。
- ⑤ 大問4(2)②の仕事率を求める問題では、完全正答率が22.5%である。物体を重力に逆らって持ち上げる仕事は、物体に加えた力の大きさとその向きに動かした距離の積として定量的に定義できること、単位時間に行う仕事の量が仕事率であることを理解し活用する力が十分とは言えない。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】科学的に探究する力を育成するために

- ・理科の学習で得た知識及び技能を活用して、科学的に探究する学習活動の充実を図る。
- ・理科の見方・考え方を働かせて結果を分析し解釈する学習活動の充実を図る。

- ① 大問2(2)②、大問6(1)①のように、理科の学習で得た知識及び技能を活用して科学的に探究することができるようにするためには、身近なものを用いて観察、実験を行い、規則性を見いだしたり課題を解決したりする力を養うことが必要である。その際、予想や仮説に照らして考察する場面を設定するなど、学習過程のつながりを重視して授業を展開することが大切である。
- ② 大問2(1)③、大問4(2)②のように、理科の見方・考え方を働かせて結果を分析し解釈することができるようにするためには、結果を図、表、グラフなどの多様な形式で表したり、結果について考察したりする時間を確保したりすることが必要である。その際、理科の見方・考え方を働かせている生徒の具体的な姿を想定して活動を計画することが大切である。

英 語

1 小問別の完全正答率と得点率

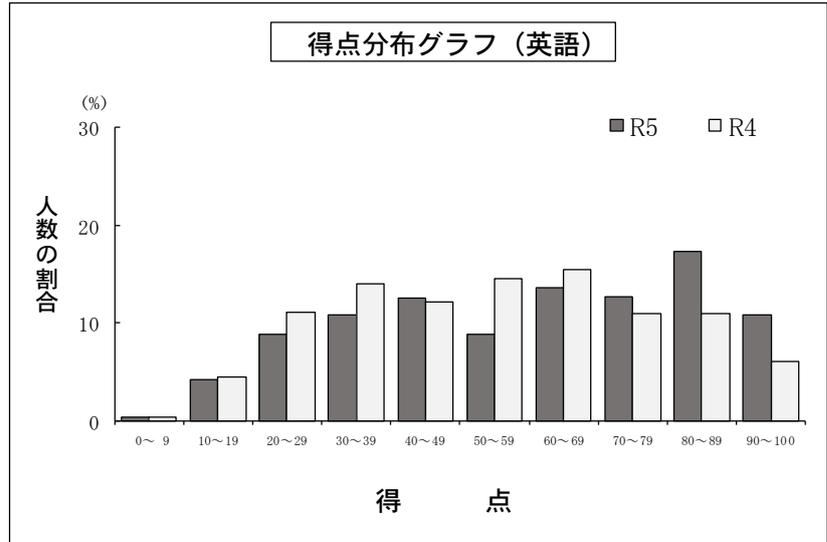
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)											
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
1	(1)	① 短い会話を聞いて要点を聞き取る	58.6												
		② 短い会話を聞いて要点を聞き取る	88.8												
	(2)	① 会話を聞いて適切に回答する	74.0												
		② 会話を聞いて適切に回答する	66.6												
		③ 会話を聞いて適切に回答する	78.9												
	(3)	① まとまりのある会話を聞いて要点を適切に聞き取る	71.5												
		② まとまりのある会話を聞いて要点を適切に聞き取る	79.5												
		③ まとまりのある会話を聞いて要点を適切に聞き取る	83.7												
	(4)	記号	まとまりのある英語を聞いて概要を適切に聞き取る	64.9											
			まとまりのある英語を聞いて概要を適切に聞き取る	82.5											
	[質問]	内容を踏まえ、相手に対する質問を英文で書く	34.7												
2	(1)	① 文脈に応じて語形を変化させる	74.6												
		② 文脈に応じて語形を変化させる	47.6												
		③ 文脈に応じて語形を変化させる	80.8												
		④ 文脈に応じて語形を変化させる	27.9												
	(2)	① 条件に合う単語を書く	86.0												
		② 条件に合う単語を書く	30.4												
		③ 条件に合う単語を書く	44.0												
		④ 条件に合う単語を書く	62.2												
	(3)	① 必要な2語を加え、正しい語順で英文を完成させる	58.8												
		② 必要な2語を加え、正しい語順で英文を完成させる	71.7												
③ 必要な2語を加え、正しい語順で英文を完成させる		54.3													
3	(1)	① 内容を正確に読み取り、英語の質問に英語で答える	25.6												
		② 内容を正確に読み取り、英語の質問に英語で答える	22.8												
	(2)	自分の尊敬する人物を英文にまとめる	16.7												
4	(1)	本文の概要を正確に読み取る	90.9												
	(2)	① 本文の概要を正確に読み取る	75.7												
		② 本文の概要を正確に読み取る	75.1												
	(3)	内容を読み取り、適切な単語を書く	19.7												
(4)	内容を読み取り、適切な単語を書く	13.5													
5	(1)	本文の内容から語句の意味を捉える	78.2												
	(2)	本文の内容を適切に読み取る	80.1												
	(3)	本文の内容を適切に読み取る	23.9												
	(4)	a	内容を読み取り、適切な単語を書く	69.8											
		b	内容を読み取り、適切な単語を書く	61.9											
	(5)	本文の要点を正確に読み取る		75.1											
		本文の要点を正確に読み取る		64.1											
	(6)	①	本文の概要や要点をを正確に捉える	30.9											
②		本文の概要や要点をを正確に捉える	62.2												

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表（英語）

年度 段階	令和5年度	令和4年度
90～100	10.8	6.1
80～89	17.3	10.9
70～79	12.7	10.9
60～69	13.5	15.5
50～59	8.9	14.5
40～49	12.5	12.2
30～39	10.8	14.0
20～29	8.9	11.1
10～19	4.2	4.5
0～9	0.4	0.3
計	100.0	100.0
平均点	60.1	54.5
標準偏差	23.8	22.4



3 現状の分析

平均点は60.1点で前年度を5.6点上回った。50点～59点の得点層の減少と80点～89点の得点層の増加が顕著であった。基本的な語句の活用に課題が見られ、正答率に差が生じたことが要因の一つであると思われる。一方で、まとまりのある英文の概要を正確に読み取る問題の得点率は概ね高くなった。

- ① 大問1は、完全正答率の平均と比較すると昨年度は67.9%であったが、今年度は71.2%となっており、聞くことの指導に関する成果が見られた。一方、聞いた内容を正しく理解し、適切に応答することに課題が見られた。
- ② 大問2(1)④は、文脈に応じて語形を変化させる問題であり、得点率は平均28.0%であった。また(2)②は、条件に合う単語を書く問題であり、簡単な語句や基本的な表現の活用に課題が見られた。日頃の授業において、「書くこと」についての指導の充実が求められる。
- ③ 大問3は、生徒と留学生とのやり取りを読み、内容に関する質問に英語で答えたり、自分の考えを述べたりする問題である。完全正答率と得点率との差があり、言語活動において、内容の適切さや言語材料の正確さに関する指導の充実が求められる。
- ④ 大問4(3)は、会話文の内容を読み取り、適切な単語を書く問題であり、完全正答率、得点率ともに19.7%であった。また(4)は、完全正答率、得点率ともに13.5%であった。まとまりのある英文を読み、内容を捉える力や要点をまとめる力を高めることが求められる。
- ⑤ 大問5(3)は、まとまりのある英文を読み、必要な情報を捉え、日本語で述べる問題であり、完全正答率は23.9%であった。また(6)①は英文の概要や要点を正確に捉える問題であり、完全正答率は30.9%であった。英文の内容を踏まえ、思考・判断した上で適切な単語で表現することに課題が見られた。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動の中で基本的な語彙と文法事項を指導するとともに、効果的なフィードバック等を通して定着を図る。
 ・幅広い資料や題材を活用して、生徒の興味・関心を高めるとともに、複数の領域を統合した言語活動を通して、コミュニケーション能力を育成する。

- ① 具体的な場面や状況等を想定した言語活動の中で、基本的な語彙や文法事項などの言語材料を繰り返し活用させることで、それらの定着を図る必要がある。言語使用等に関して、活動中のフィードバックや、活動後の振り返りを通して、正確さや適切さを高めていくことが重要である。
- ② 日常的な話題や社会的な話題について聞いたり読んだりしたことを基に、考えや気持ちなどを他者と伝え合うなど、複数の領域を統合させた言語活動を行うことが一層求められる。その際、情報を整理しながら考えを形成し、適切な表現を用いて伝え合う機会を充実させることが大切である。